

595 mg/dl (73%) ($P < 0.05$) と減少した (図 2)。

総コレステロールの推移 (図 3) をみると、5 名中 3 名は食事療法でも減少をみたが正常化するには至っていない。コレステラミン投与併用 6 カ月後には 5 名中 2 名は 200 mg/dl まで、他の 2 名は 220 mg/dl, 238 mg/dl まで下降した。1 名は 321 mg/dl と高値のままであった。投与 12 カ月後には 5 名中 2 名は 235 mg/dl, 248 mg/dl, 他の 2 名は 261 mg/dl, 267 mg/dl まで下降しており、1 名は 303 mg/dl と高値を示していた。

症例 3 でコレステラミン投与 11 日目より 28 日目までの 18 日間便秘がみられた。症例 5 は投与 6 カ月後より便秘

が続き、以後コレステラミンを半量の 6 g/日 投与に減量した。

〔結 論〕

高校生のスクリーニングで、家族性高コレステロール血症は 4/2935 (0.14%) であった。ヘテロ接合体 5 名に食事療法 (コレステロール 300 mg/日以下) とコレステラミン投与 (12 g/日, 食前 3 分服) を併用した結果、6 カ月後には 4 名において血清総コレステロールの著明な低下 (250 mg/dl 以下) が認められた。12 カ月後でも 4 名は 250 mg/dl 付近の値を維持していた。

学童血清脂質の地域差の成因に関する検討 (静岡県東部地方)

日本大学小児科 大 国 真 彦

岡 田 知 雄

沼津市立病院小児科 梁 茂 雄

〔はじめに〕

沼津市函南地区の町中と山間部の小学生において、血清総コレステロール (T-ch) 値に地域差を認めた事を先

に報告した。これをまとめたのが図 1 である。今回この地域差の成因について、T-ch 値と体力テストの成績とを比較検討した。

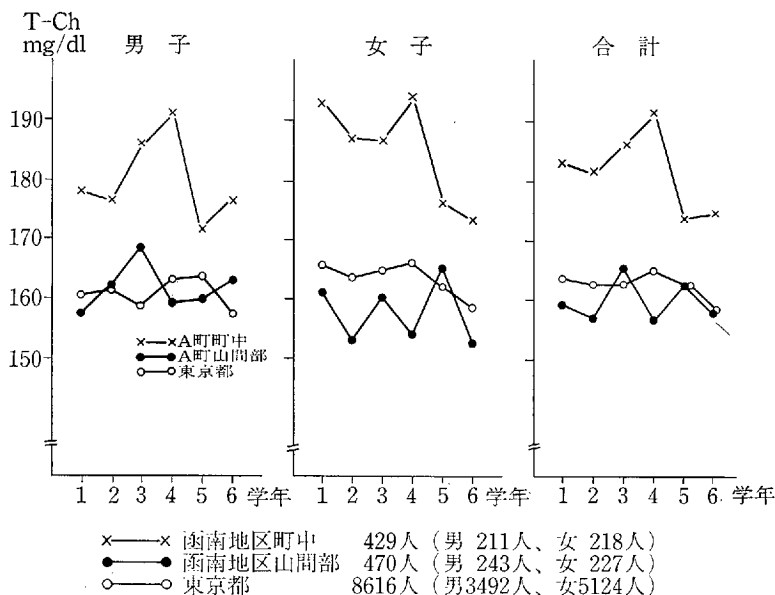


図 1

表 1 総コレステロール値と体力テスト(男子)

	3 年 生		4 年 生		5 年 生		6 年 生	
	函 南	山間部	函 南	山間部	函 南	山間部	函 南	山間部
総コレステロール (mg/dl)	186.2 ±23.4	168.7 ±24.0	192.4 ±28.0	159.4 ±15.5	173.8 ±22.0	159.7 ±21.4	174.9 ±19.7	163.2 ±21.4
50m 競 走 (秒)	9.9	9.5	9.6	9.4	9.0	9.0	8.6	8.9
走り幅とび (cm)	256.9	261.8	279.8	292.8	311.0	320.9	339.3	332.8
ボール投げ (m)	22.5	24.6	25.9	28.8	29.9	30.7	35.8	33.7
斜 懸 垂 (回)	—	—	—	—	20.7	32.8	28.8	28.8
連続逆上り (回)	—	—	—	—	4.9	5.3	6.0	5.2
水 泳 25m (%)	28.1	93.5	70.0	70.0	72.3	90.0	95.7	97.6

総コレステロール値と体力テスト(女子)

	3 年 生		4 年 生		5 年 生		6 年 生	
	函 南	山間部	函 南	山間部	函 南	山間部	函 南	山間部
総コレステロール (mg/dl)	186.5 ±24.5	160.3 ±21.6	194.0 ±26.3	154.3 ±21.4	176.3 ±20.5	165.5 ±24.6	173.4 ±18.9	152.8 ±23.8
50m 競 走 (秒)	10.4	10.2	10.0	10.0	9.1	9.4	8.8	8.8
走り幅とび (cm)	220.7	244.3	258.8	240.2	292.0	298.4	315.8	315.9
ボール投げ (m)	12.4	13.6	13.3	16.7	16.4	17.1	20.8	20.7
斜 懸 垂 (回)	—	—	—	—	19.9	22.8	20.9	24.4
連続逆上り (回)	—	—	—	—	6.0	5.3	5.4	5.4
水 泳 25m (%)	21.8	53.8	35.5	83.7	65.5	88.6	90.0	97.0

〔方 法〕

函南地区の町中と山間部の小学3年生から6年生を対象に、6種の各体力テスト平均値とT-ch値を男女別、学年別に対比して、町中と山間部の小学生間に有意差があるか否かを調べた。対象人数は、町中の小学生235人(男118人、女117人)、山間部の小学生178人(男88人、女90人)である。

〔結 果〕

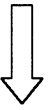
表1の結果を得た。一般に各種体力テストの成績は、男女ともに小学3年、4年生において山間部の方が町中のそれをやや上回っているようではあるが、5年、6年生になると、体力テストの成績はほとんど差がなくなる。今回の調査では、体力テスト成績が、T-ch値の地域差には、関係がないという結果であった。

〔考 案〕

小学生のT-ch値についての地域差の背景として、函南地区町中と山間部の小学3年生から6年生を対象に、その体力テスト成績を比較検討してみたが、体力テストとT-ch値との間には有意の相関性を認めず、かつT-ch値の地域差との関連も認めなかった。この事は、小学生においての体力テストが、筋力や瞬発力などの運動能力を評価するものであり、運動能力とT-ch値とは相関しない事を意味し、持続的な運動量の維持とT-ch値との関連性とは、自ずと異なるものであると解される。今後、小学校学童におけるT-ch値の地域差については、食事分析と併せて、持続的な運動量の維持についての差との関連について追求する必要があるかと考えられる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔はじめに〕

沼津市函南地区の町中と山間部の小学生において、血清総コレステロール(T-ch)値に地域差を認めた事を先に報告した。これをまとめたのが図1である。今回この地域差の成因について、T-ch 値と体力テストの成績とを比較検討した。